

島原本広第78号
平成23年5月31日

島根県知事 溝口善兵衛様

中国電力株式会社
常務取締役 島根原子力本部
本部長 清水希茂

平成23年東北地方太平洋沖地震を踏まえた新耐震指針に照らした既設発電用原子炉施設等の耐震安全性の評価結果の報告に係る原子力安全・保安院における検討に際しての意見の追加への対応について（報告）

平成23年4月28日付「平成23年東北地方太平洋沖地震を踏まえた新耐震指針に照らした既設発電用原子炉施設等の耐震安全性の評価結果の報告に係る原子力安全・保安院における検討に際しての意見の追加への対応について」（平成23・04・28原院第4号）に基づき、本日、添付のとおり経済産業省へ報告しましたので、島根原子力発電所周辺地域住民の安全確保等に関する協定第8条第1項（9）に基づきご連絡いたします。

添付

平成23年東北地方太平洋沖地震を踏まえた新耐震指針に照らした既設発電用原子炉施設等の耐震安全性の評価結果の報告に係る原子力安全・保安院における検討に際しての意見の追加への対応について（報告）

以上



電 原 設 第 1 8 号
平成 2 3 年 5 月 3 日

経済産業省

原子力安全・保安院長 寺坂 信昭 殿

中国電力株式会社

取締役社長 山下 隆

平成 2 3 年東北地方太平洋沖地震を踏まえた新耐震指針に照らした既設発電用原子炉施設等の耐震安全性の評価結果の報告に係る原子力安全・保安院における検討に際しての意見の追加への対応について（報告）

平成 23 年 4 月 28 日付け「平成 2 3 年東北地方太平洋沖地震を踏まえた新耐震指針に照らした既設発電用原子炉施設等の耐震安全性の評価結果の報告に係る原子力安全・保安院における検討に際しての意見の追加への対応について」（平成 23・04・28 原院第 4 号）の指示に基づき、別紙のとおり、まとめましたので報告いたします。

別紙

平成 2 3 年東北地方太平洋沖地震を踏まえた新耐震指針に照らした既設発電用原子炉施設等の耐震安全性の評価結果の報告に係る原子力安全・保安院における検討に際しての意見の追加への対応に基づく報告について

平成23年東北地方太平洋沖地震を踏まえた新耐震指針に照らした既設発電用原子炉施設等の耐震安全性の評価結果の報告に係る原子力安全・保安院における検討に際しての意見の追加への対応に基づく報告について

平成23年4月28日付け「平成23年東北地方太平洋沖地震を踏まえた新耐震指針に照らした既設発電用原子炉施設等の耐震安全性の評価結果の報告に係る原子力安全・保安院における検討に際しての意見の追加への対応について」（平成23・04・28 原院第4号）の指示に基づき、以下の通り報告します。

東北地方太平洋沖地震に伴って、大きな地殻変動が観測されたことを踏まえ、原子力発電所の耐震設計上考慮する必要がある断層に該当する可能性の検討に当たって必要な情報として、島根原子力発電所周辺において、既往の調査に基づき、耐震設計上考慮していない断層等に関する情報を整理した。

既往の調査に基づき、耐震設計上考慮していない断層等を表1および表2に示す。

島根原子力発電所周辺は、この度の東北地方太平洋沖地震に伴う地殻変動の影響は小さいと考えられるが、今回の地震に関する情報収集に努め、新たな知見については今後の評価に適切に反映していく。

以 上

表1 耐震設計上考慮していない断層等に対する評価（敷地周辺・近傍）

島根原子力発電所

N o .	名 称	分布域	長さ※ ¹	敷地からの距離※ ²	活動性を否定する理由	備 考
①	垣の内北側断層	陸域	1.8km	5km	岩質の差を反映した組織地形である。	図1および添付1
②	万田付近断層	陸域	8.3km	21km	岩質の差を反映した組織地形である。	図1および添付2
③	木次南断層	陸域	18.8km	31km	花崗岩中の卓越する節理等の分離面に沿って浸食を受けた組織地形である。	図1および添付3
④	古殿[北][南]断層	陸域	2.4km	4km	岩質の差を反映した組織地形である。	図1および添付4
⑤	山中付近断層	陸域	5.1km	4km	岩質の差を反映した組織地形である。	図1および添付5
⑥	F－A断層	陸域 (中海)	2.2km 以上	17km	VII _N 層(中期～後期更新世火山岩)，II _N 層(中部～上部更新統) および I _N 層(完新統) に変位や変形を与えていない。	図2および添付6
⑦	F－B断層	陸域 (中海)	2.8km 以上	14km	VII _N 層(中期～後期更新世火山岩)，II _N 層(中部～上部更新統) および I _N 層(完新統) に変位や変形を与えていない。	図2および添付6
⑧	F－C断層	陸域 (中海)	2.7km 以上	14km	VII _N 層(中期～後期更新世火山岩)，II _N 層(中部～上部更新統) および I _N 層(完新統) に変位や変形を与えていない。	図2および添付6
⑨	F－I断層	海域	19.5km	26km	B _{2E} 層(中部更新統) に変位や変形を与えていない。	図2および添付7
⑩	F－II断層	海域	12.5km	13km	B _{2E} 層(中部更新統) に変位や変形を与えていない。	図2および添付7
⑪	F－VI断層	海域	18.5km	34km	C層(鮮新統～下部更新統) に変位や変形を与えていない。	図2および添付7
⑫	K－5撓曲	海域	16.5km	21km	B _{2E} 層(中部更新統) に変位や変形を与えていない。	図2および添付7
⑬	地蔵崎北東沖の断層	海域	46km	41km	文献に示されている断層位置において，記録が見られる深度には断層は認められない。	図2および添付7 長さは文献記載長さ

※1 陸域は空中写真判読結果に基づく長さ。陸域（中海）および海域は音波探査結果に基づく長さ。

※2 3号機炉心から断層の中心までの距離。

表2 耐震設計上考慮していない断層等に対する評価（敷地内）

島根原子力発電所

N o .	名 称	活動性を否定する理由	備 考
①	シーム	いずれも厚さが薄く，母岩との境界面が明瞭であること，地層の走向・傾斜と同一であることなどから，新第三紀中新世の褶曲構造の形成に伴って生成されたものと考えられる。	添付8

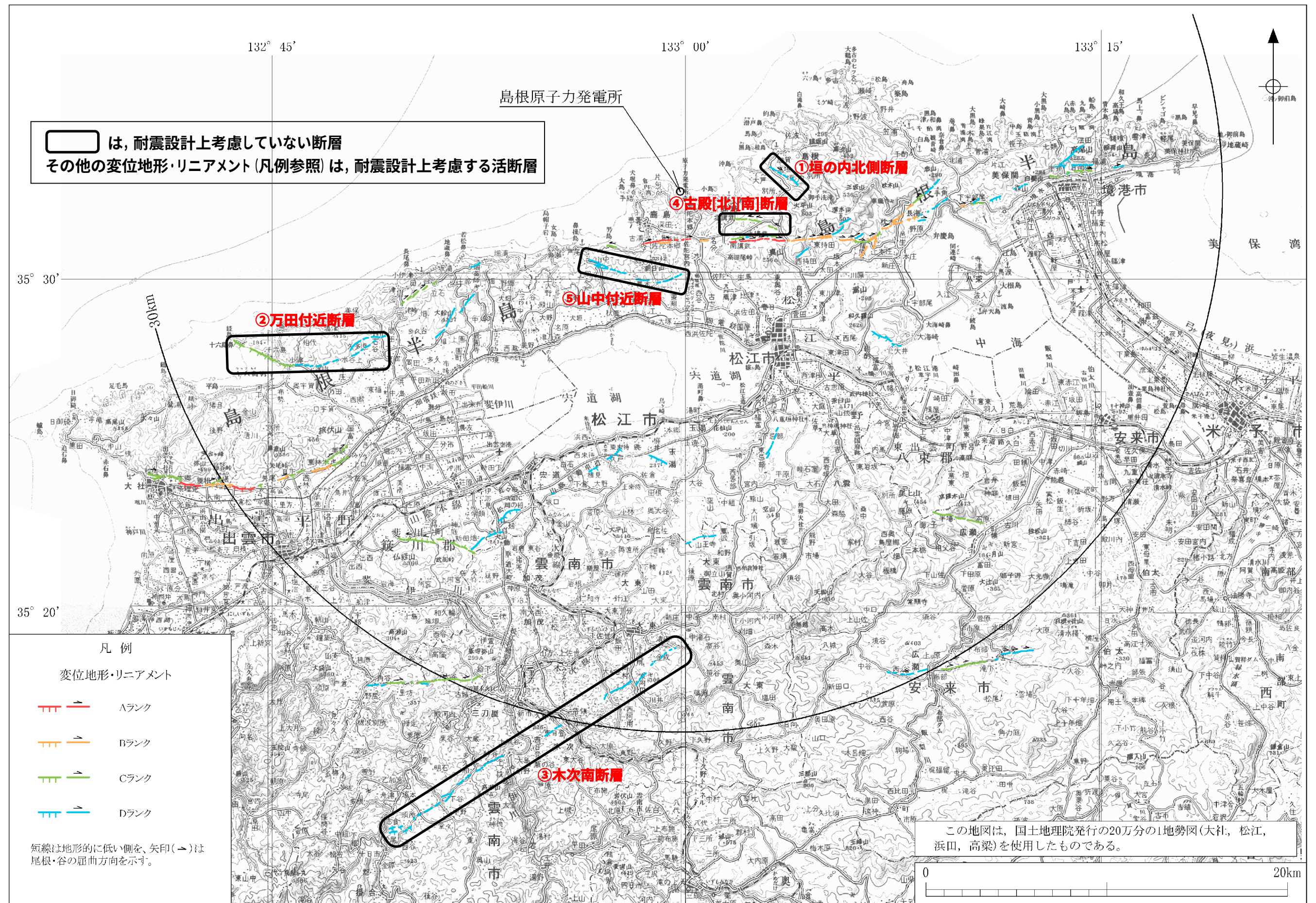
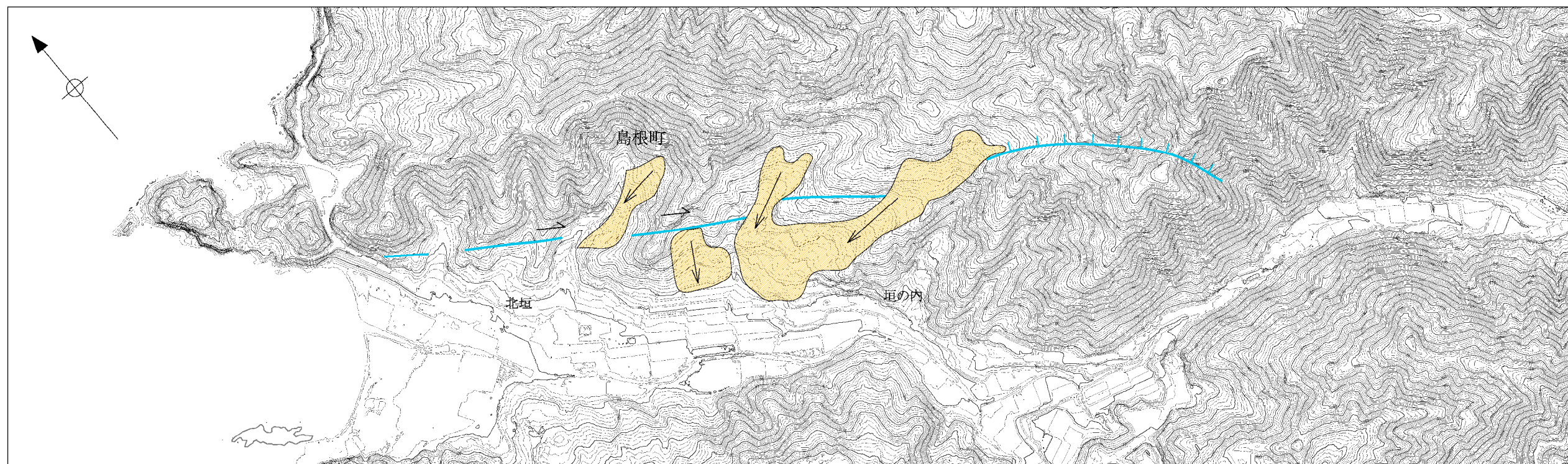


図1 敷地周辺陸域の変位地形・リニアメント分布図

敷地周辺・近傍の断層等

①垣の内北側断層

調査項目	調査手法	調査結果	備 考
文献調査	－	・ 橋本ほか（1980）：長さ 4.0 km，西北西-東南東方向，準確実活断層	
		・ 活断層研究会編（1991）：長さ 4.0 km，確実度Ⅱ，活動度 C	
		・ 佃ほか（1985），中田・今泉編（2002），中田ほか（2008）：記載なし	
地形調査	空中写真判読	・ 直線状の谷，鞍部，傾斜変換線等から成る北西－南東方向の長さ 1.8km の変位地形・リニアメント。	添付図 1－1
		・ 変位地形・リニアメントの南東側の山地斜面には逆向き崖による北東側低下の高度差が認められ，変位地形・リニアメントの北西側では一部に河谷と尾根に右屈曲が認められるが不明瞭で系統的ではない。	
地質調査	地表地質踏査	・ 新第三系中新統の牛切層の流紋岩～デイサイト質火砕岩，砂岩・礫岩，砂岩・泥岩互層，泥岩および貫入岩であるデイサイト，安山岩，玄武岩が分布する。	添付図 1－2
		・ 牛切層は，ほぼ東西方向の走向で北傾斜の緩やかな同斜構造を示す。	
		・ 島根町垣の内の北部では，変位地形・リニアメントの一部が流紋岩～デイサイト質火砕岩と貫入岩であるデイサイトとの地質境界に対応する。	添付図 1－3
		・ 島根町垣の内南東部のピット調査では，泥岩および流紋岩～デイサイト質火砕岩が北傾斜の緩やかな構造を示し，変位地形・リニアメント位置には断層は認められない。	
総合評価	・ 垣の内北側断層にほぼ対応する変位地形・リニアメントは，岩質の差を反映した組織地形であると判断される。		



0 500m

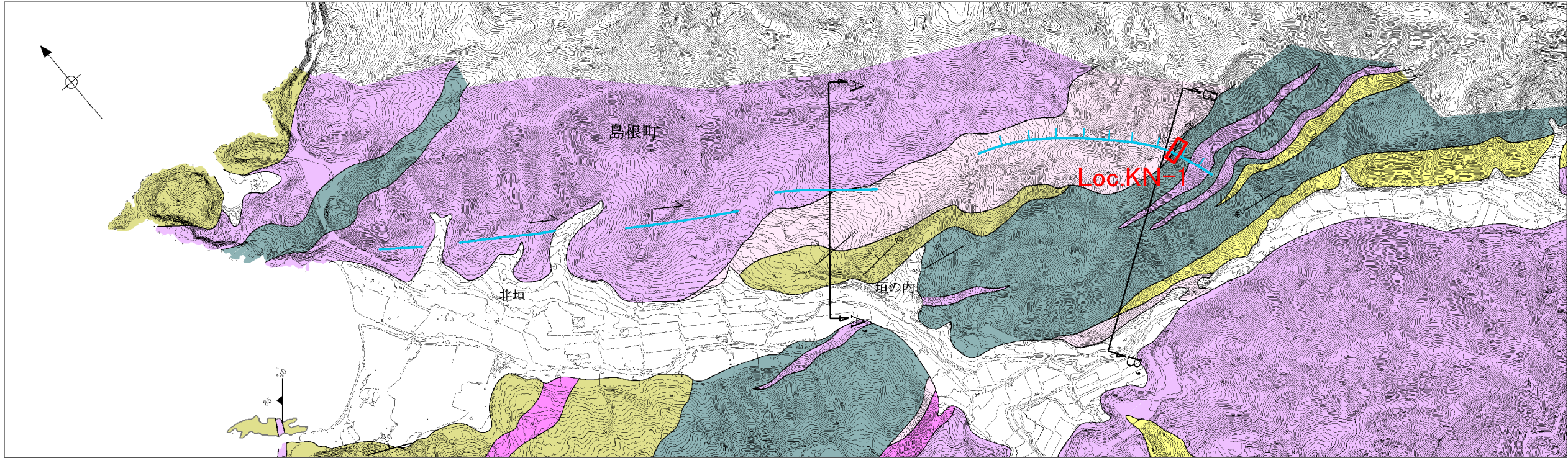
凡 例

短線 矢印(→) Dランク

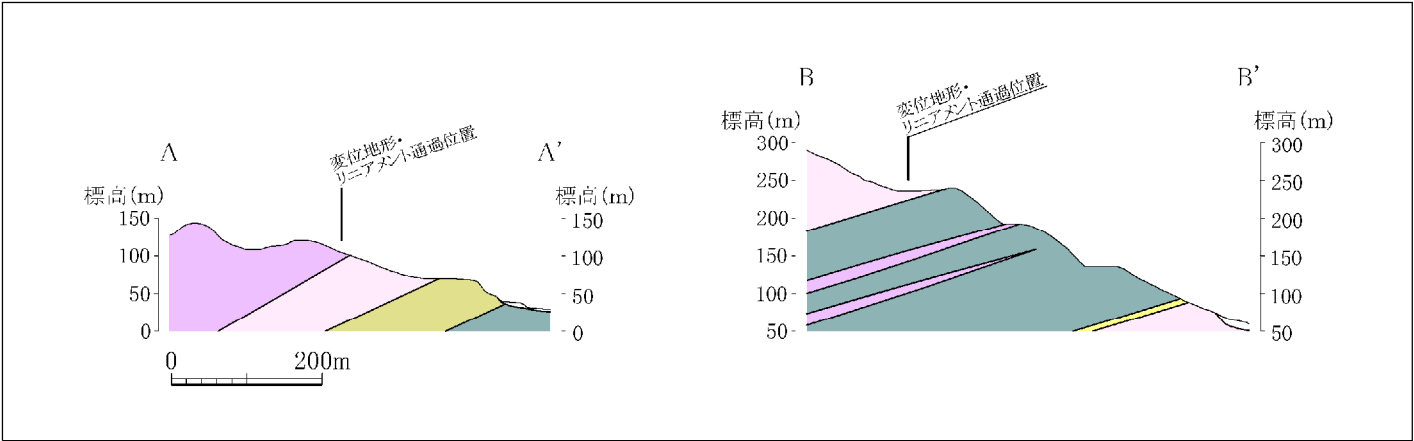
短線は地形的に低い側を、矢印(→)は尾根・谷の屈曲方向を示す。

地すべり

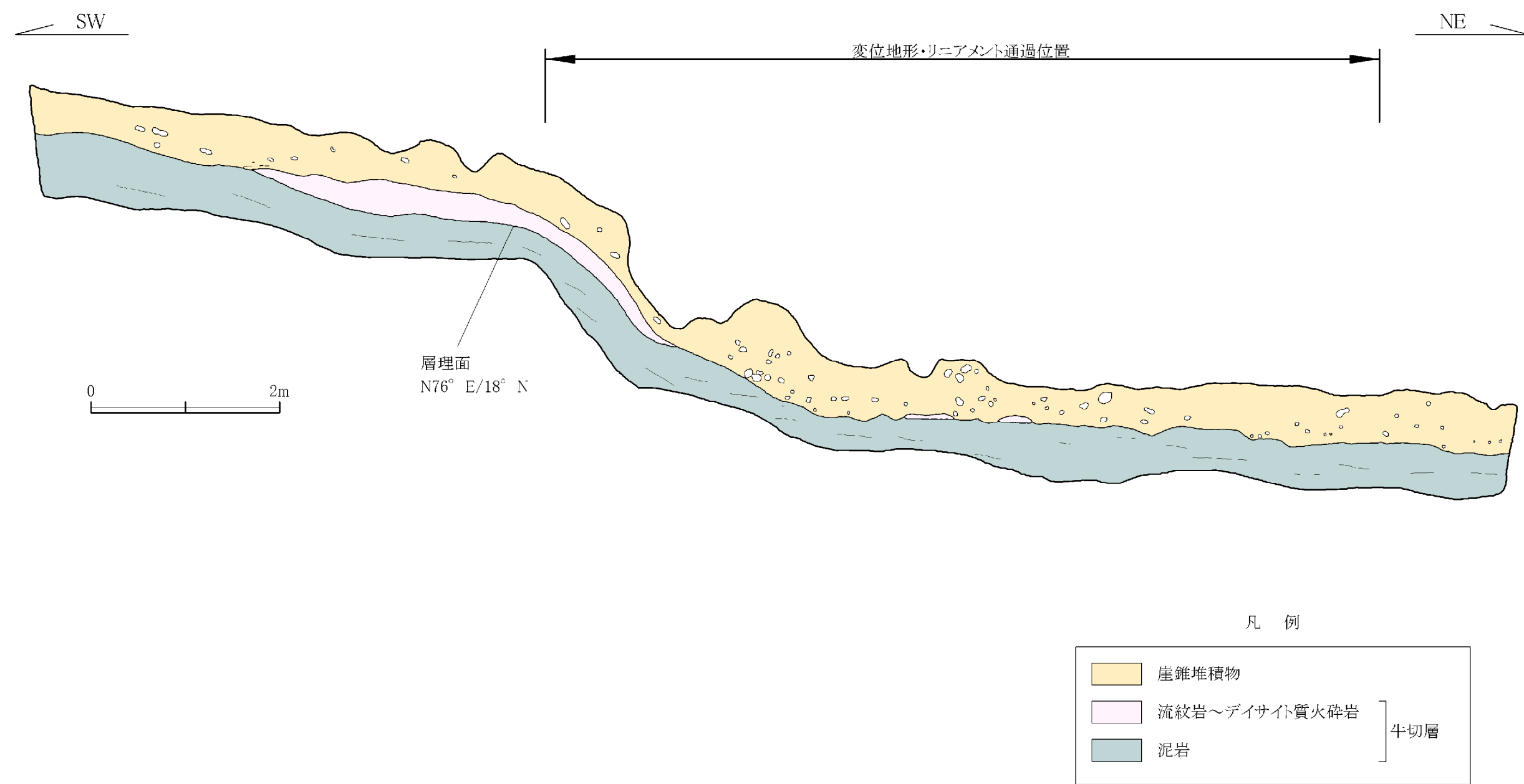
添付図1－1 垣の内北側断層周辺の空中写真判読図



凡 例



添付図 1－2 垣の内北側断層周辺の地質図および地質断面図



添付図1－3 露頭スケッチ（島根町垣の内：L o c . K N－1）

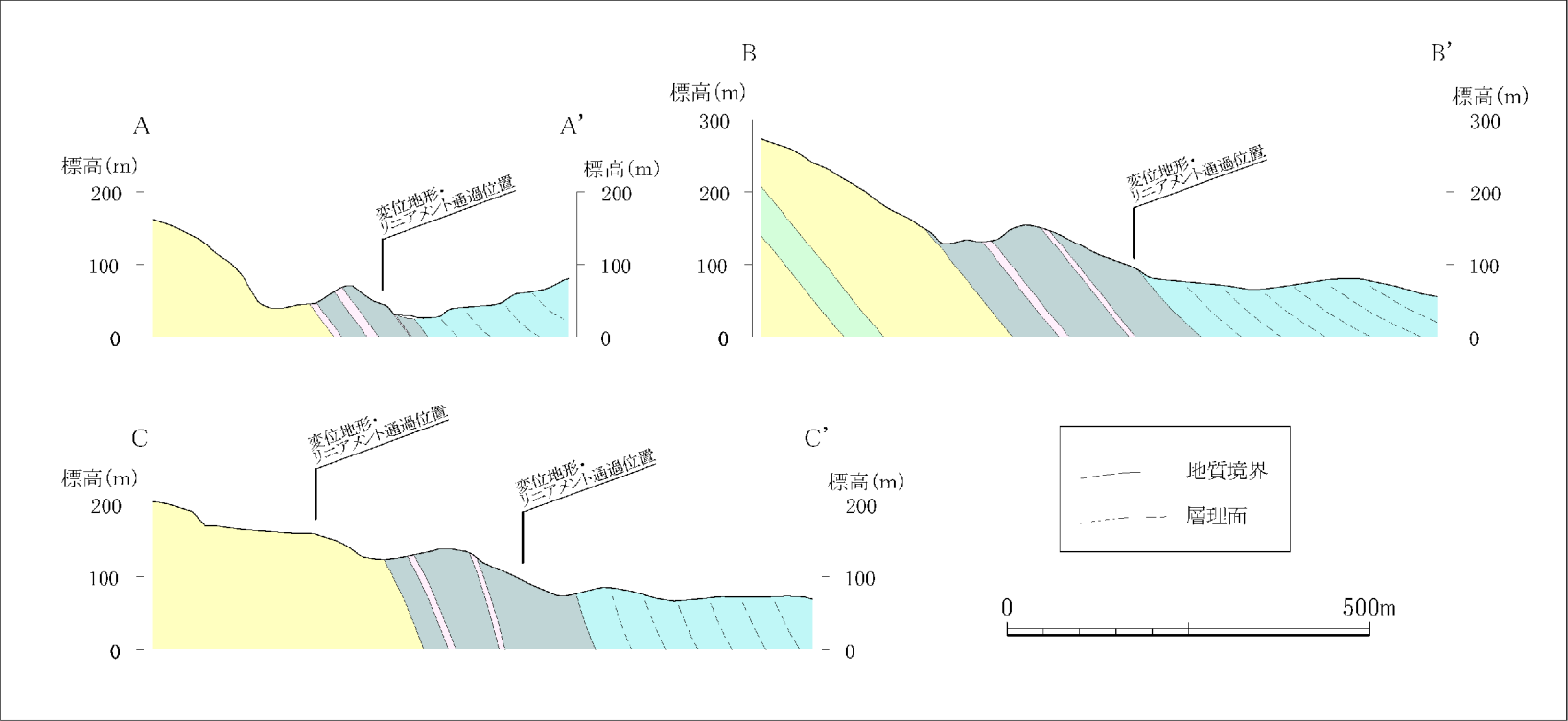
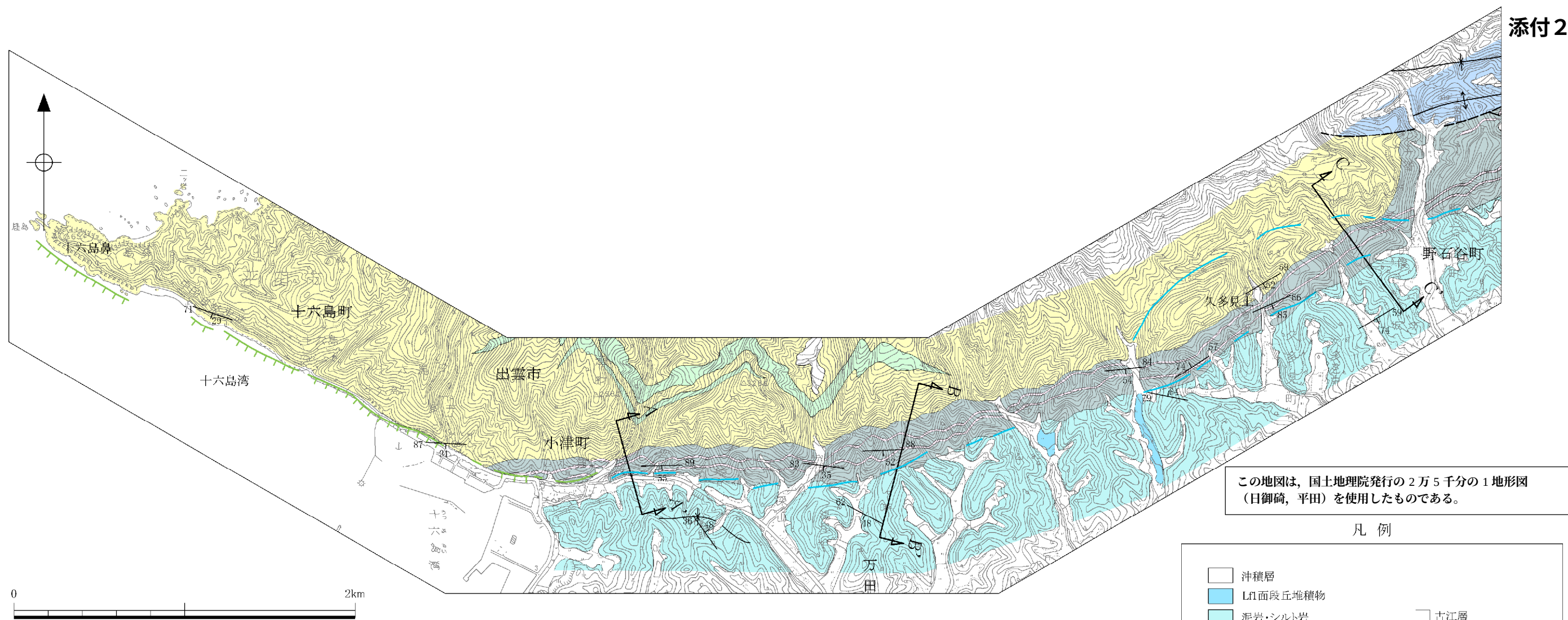
敷地周辺・近傍の断層等

②万田付近断層

調査項目	調査手法	調査結果	備 考
文献調査	—	・ 橋本ほか（1980）：長さ 8.0 km，東－西～東北東－西南西方向，準確実活断層	
		・ 活断層研究会編（1991）：長さ 8 km，確実度Ⅱ，活動度 C	
		・ 佃ほか（1985），中田・今泉編（2002）：記載なし	
地形調査	空中写真判読	・ 三角末端面，鞍部等から成る西北西－東南東方向～東北東－西南西方向の長さ 8.3km の変位地形・リニアメント。	添付図 2－1
		・ 変位地形・リニアメントを境として，山地高度に南側低下の高度不連続がみられる。	
地質調査	地表地質踏査	・ 新第三系中新統の成相寺層，牛切層および古江層が分布する。成相寺層は，本地域の東端部に分布し泥岩から成る。牛切層は，泥岩，砂岩・泥岩互層などから成る。古江層は，やや軟質な泥岩・シルト岩から成る。	添付図 2－2
		・ 出雲市野石谷町付近から出雲市小津町までは，牛切層と古江層は概ね同斜構造を示し，両者は整合関係にあるものと判断される。	
		・ 十六島町の海岸線に沿って認められる変位地形・リニアメントは，変位地形・リニアメントとほぼ同方向に層理面が発達し，地質構造は小津東方の同斜構造が連続しているものと判断される。	
総合評価	・ 万田付近断層にほぼ対応する変位地形・リニアメントは，岩質の差を反映した組織地形であると判断される。		



添付図2－1 万田付近断層周辺の空中写真判読図

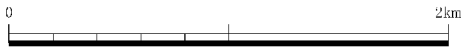


添付図2-2 万田付近断層周辺の地質図および地質断面図

敷地周辺・近傍の断層等

③木次南断層

調査項目	調査手法	調査結果	備 考
文献調査	－	・活断層研究会編（1991）：長さ約 20 km，北東－南西方向，確実度Ⅲ	
		・佃ほか（1985），中田・今泉編（2002）：記載なし	
地形調査	空中写真判読	・傾斜変換線，鞍部等から成る北東－南西方向の長さ 18.8km の変位地形・リニアメント。	添付図 3－1
		・変位地形・リニアメントの南西部では，山地斜面に逆向き崖から成る南東側低下の高度差が認められるが，それ以外の区間では顕著な高度差は認められない。 ・変位地形・リニアメントには河谷と尾根の屈曲は認められない。	
地質調査	地表地質踏査	・古第三紀に貫入した花崗岩類が広く分布し，掛合町北迫付近には古第三系の八神火山岩類が分布する。 ・三刀屋川，斐伊川などの河川沿いには，高位面，中位面および低位面段丘堆積物が河成段丘を形成しており，北東端に近い大東町金成付近には古期扇状地堆積物が分布する。	添付図 3－2
		・大東町清田付近には，上部更新統に対比される古期扇状地堆積物が分布し，これが形成する扇状地面に変位地形は認められず，古期扇状地堆積物を覆う三瓶木次軽石層（約 10 万年前）の上面にも有意な高度差はなく，さらにその北東方においては新第三系の波多層が連続して分布している。	
		・大東町金成付近では，中～粗粒の大東花崗閃緑岩とこれを貫く細粒の下久野花崗岩が分布しており，変位地形・リニアメントは両者の貫入境界にほぼ一致する。 ・大東花崗閃緑岩は，下久野花崗岩に比べ風化がみられ，大東花崗閃緑岩が分布する北西側の山地高度が全体に低くなっている。	
		・木次町宇谷付近では，変位地形・リニアメントの方向と調和的な小規模な閃緑岩の貫入岩体が分布しており，貫入岩中に北東－南西方向の粘土脈が認められる。	
		・木次町西日登の斐伊川沿いでは，文献により 1,000m以上の右横ずれが指摘されているが，上下流の河道には変位が認められず，変位地形・リニアメントに沿って河谷や尾根が系統的に大きく屈曲するような変位地形は認められない。	
		・掛合町松尾付近の三刀屋川沿いにある H3 面（高位面）に変位地形は認められず，段丘堆積物を覆う三瓶木次軽石層にも有意な高度差は認められない。	
		・周辺に分布する花崗岩中には，変位地形・リニアメントと同方向の節理等の分離面が多数認められ，挟在物中には小規模な粘土化した部分や熱水変質を受けている部分も確認している。	
		総合評価	



凡 例

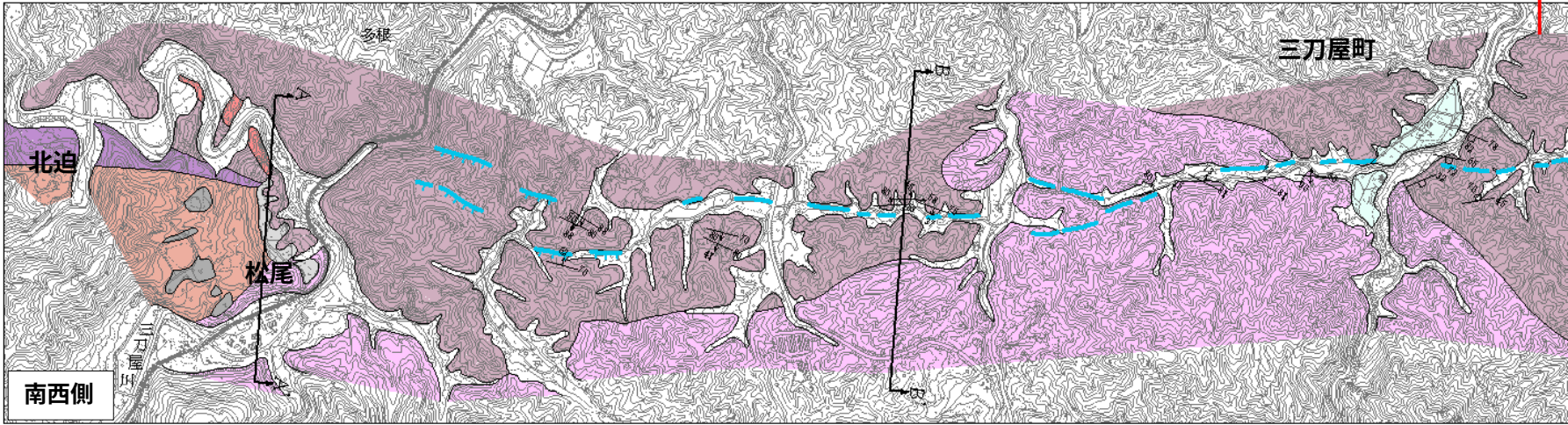
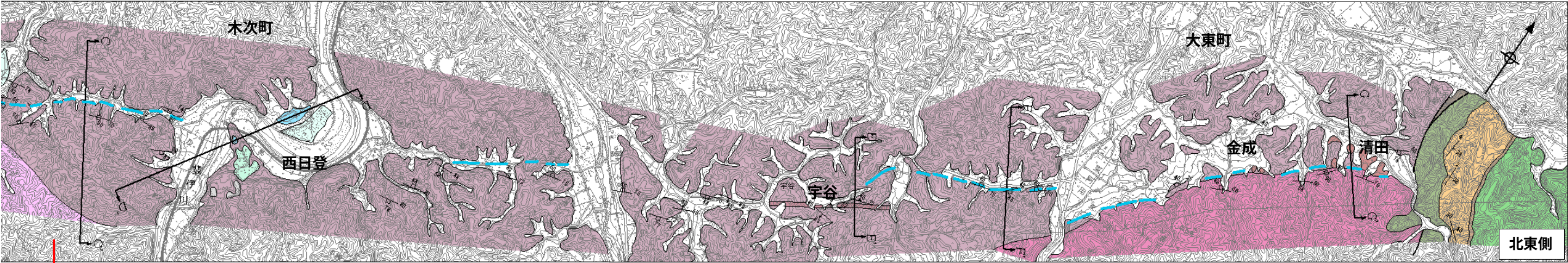
Dランク

短線は地形的に低い側を、矢印(→)は尾根・谷の屈曲方向を示す。

- | | | |
|--|-----|--------|
| | L2面 | } 低位面群 |
| | L1面 | |
| | M1面 | } 中位1面 |
| | H3面 | |
| | H2面 | } 高位面群 |

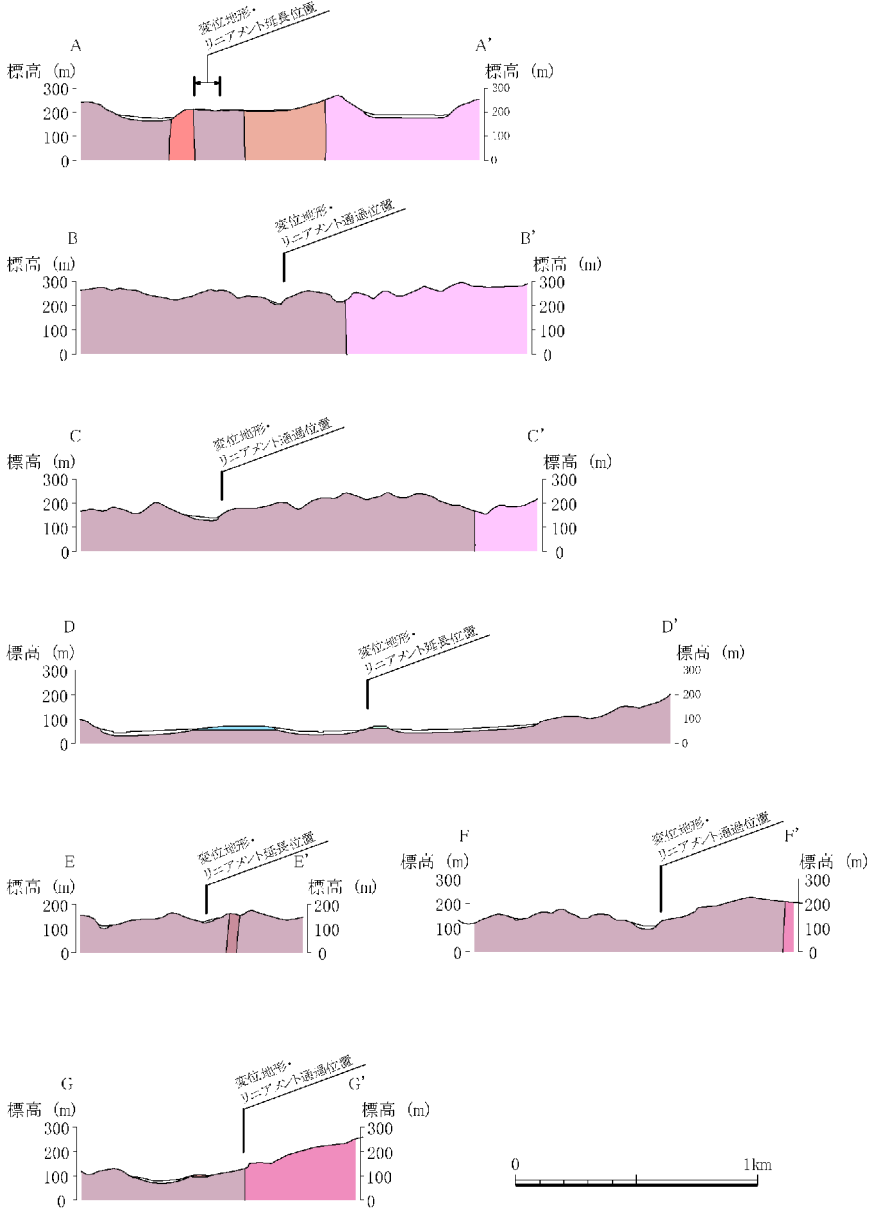
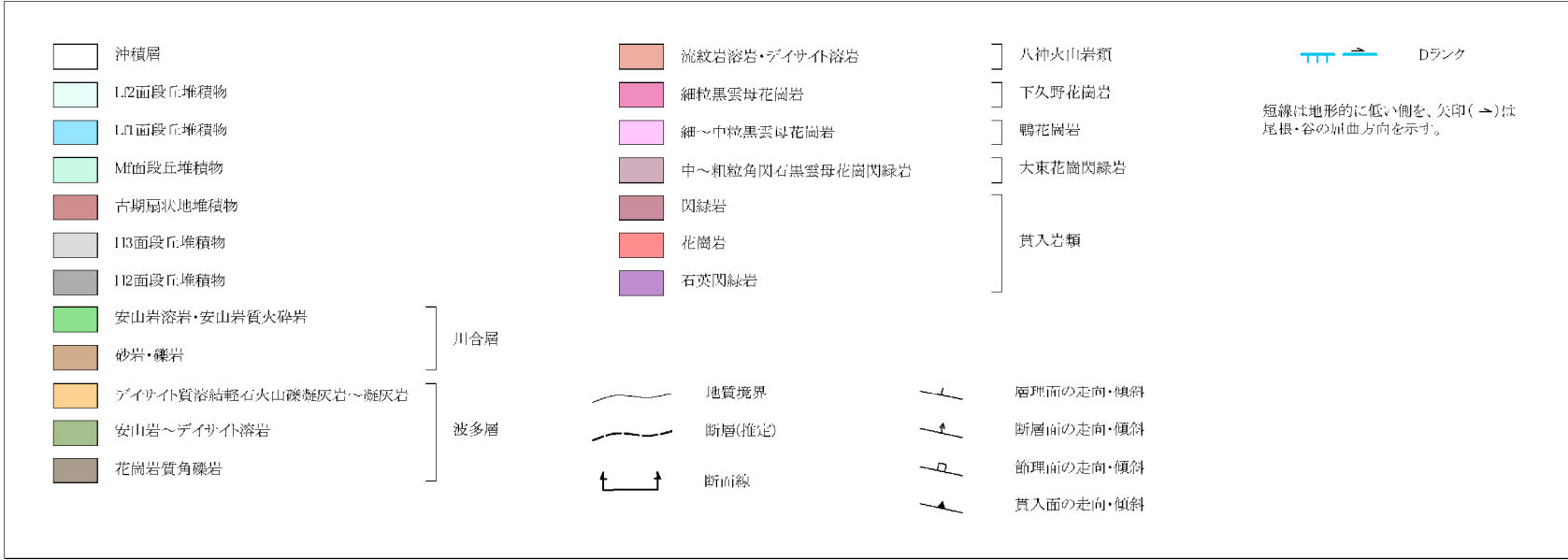
この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図(稗原, 木次, 上山佐, 掛合, 湯村)を使用したものである。

添付図3-1 木次南断層周辺の空中写真判読図



この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図
(稗原, 木次, 上山佐, 掛合, 湯村)を使用したものである。

凡 例

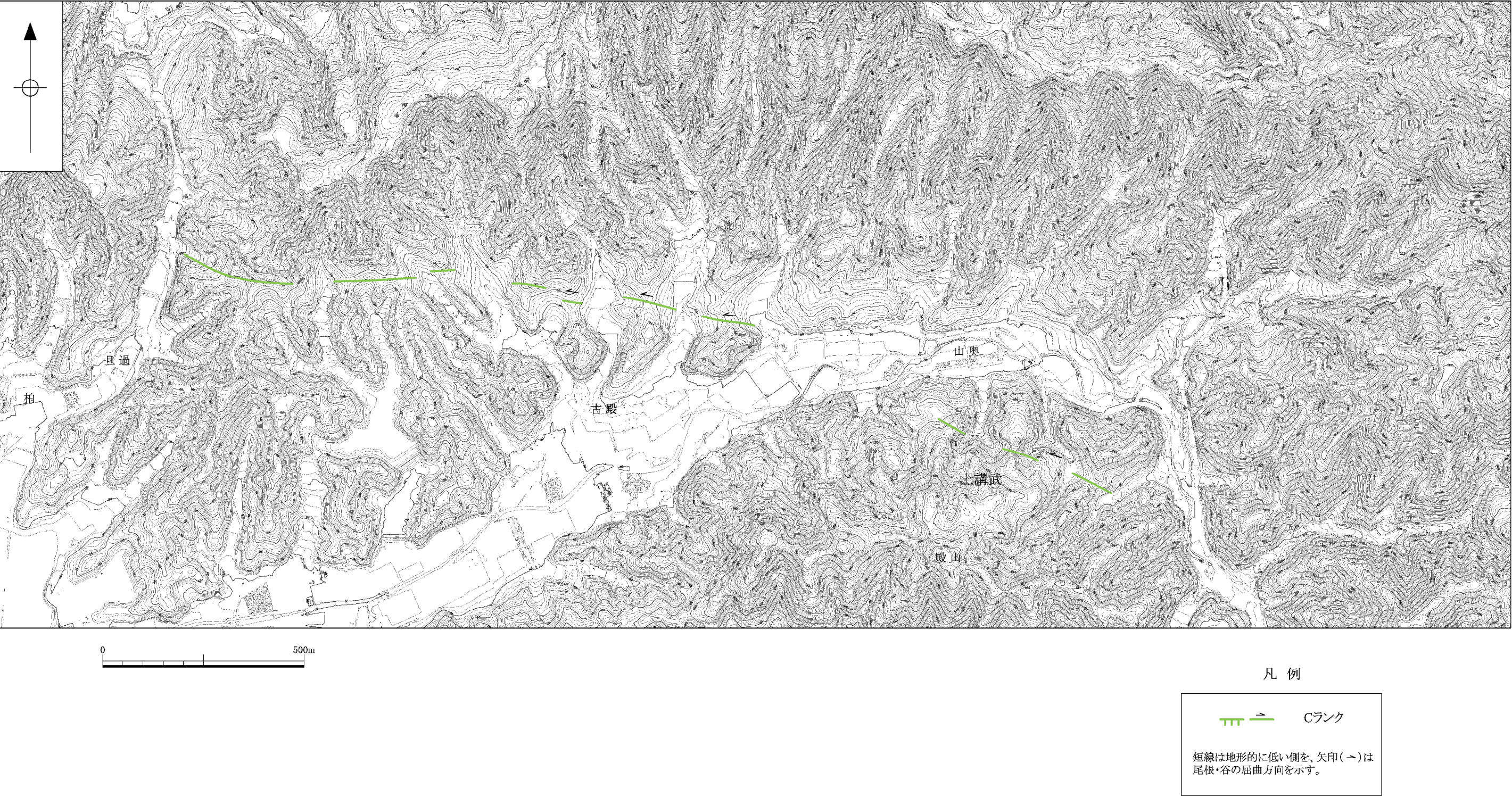


添付図3-2 木次南断層周辺の地質図および地質断面図

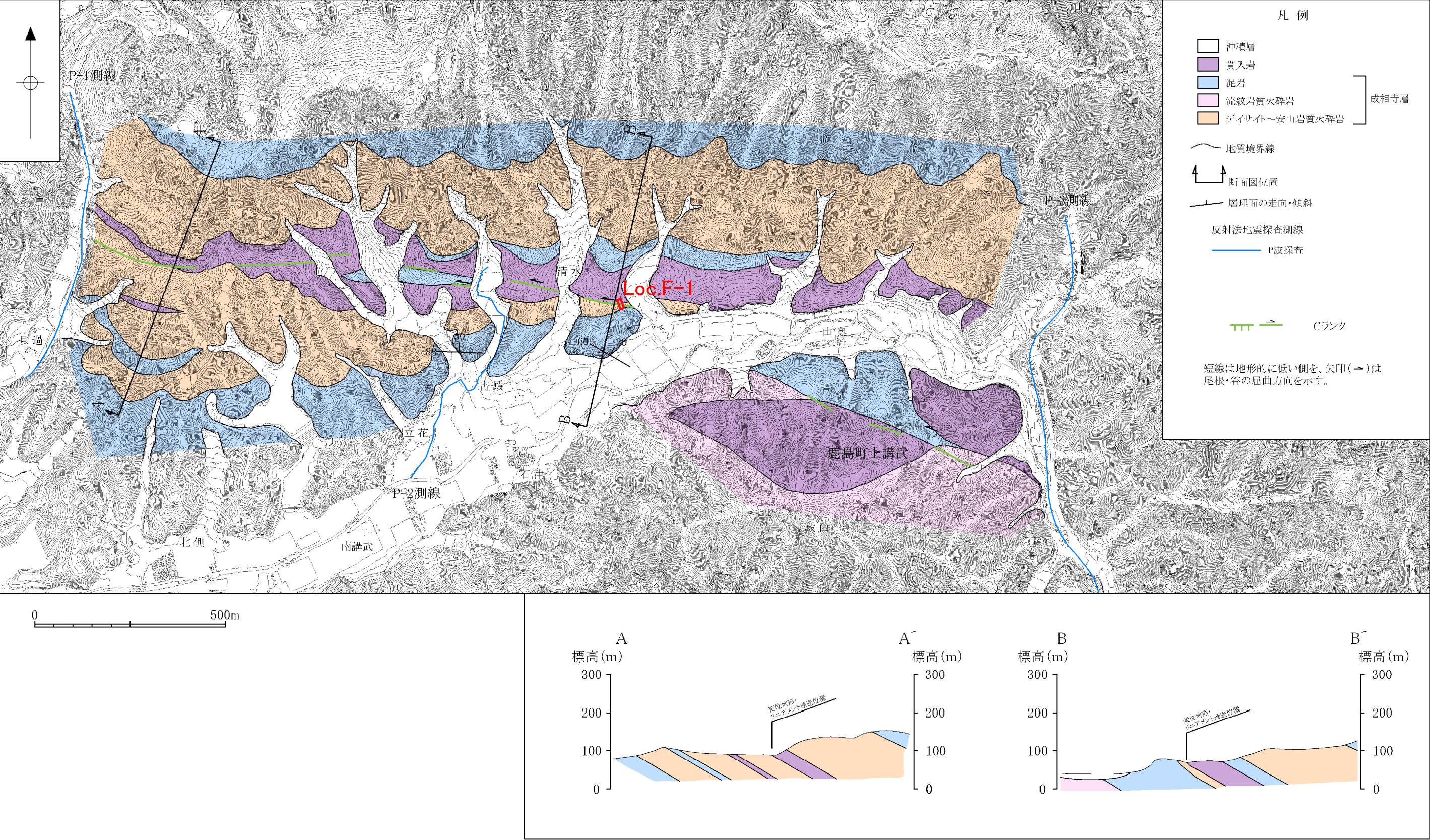
敷地周辺・近傍の断層等

④古殿[北][南]断層

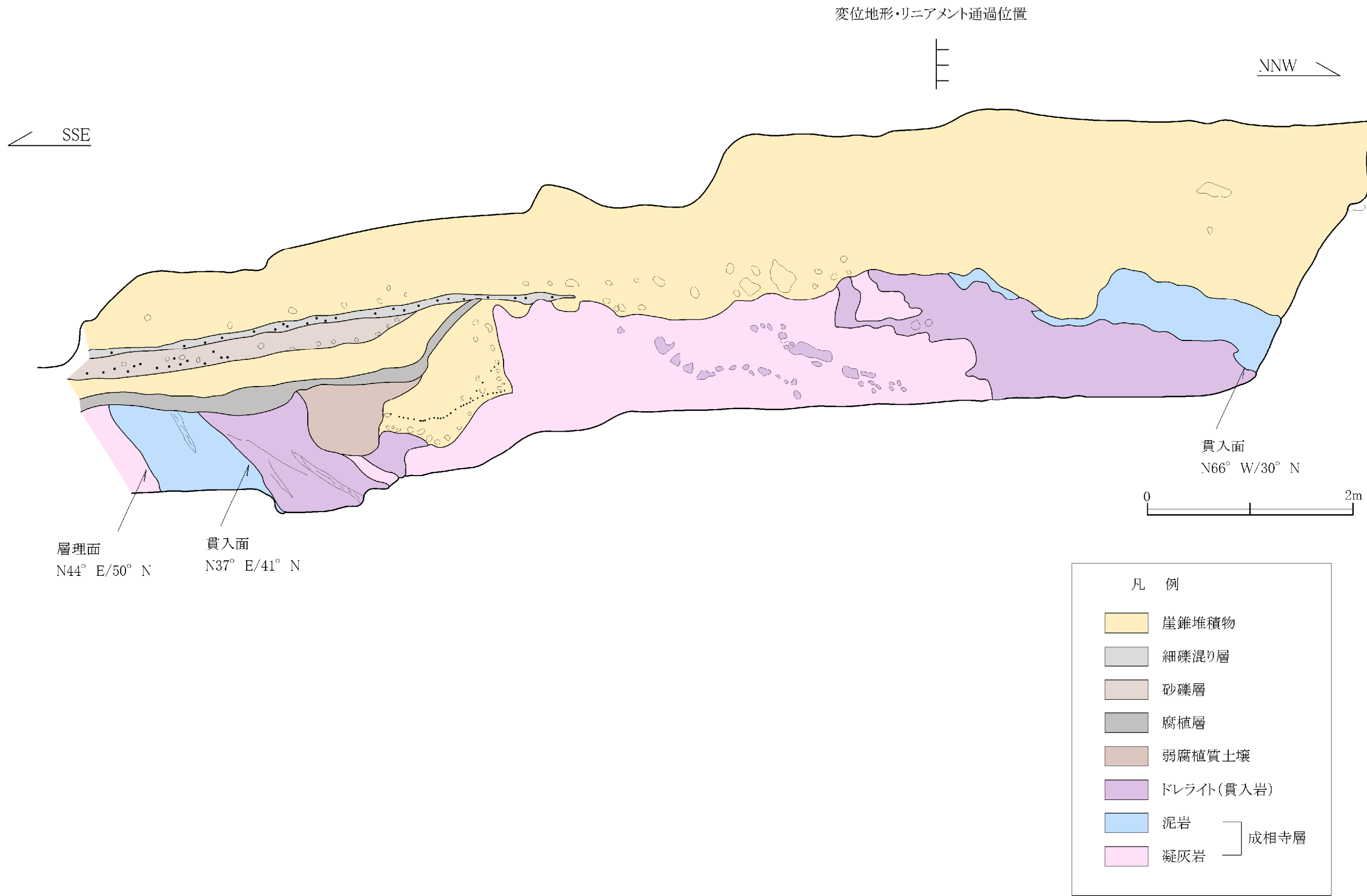
調査項目	調査手法	調査結果	備 考
文献調査	—	・橋本ほか（1980）：長さ 3.5 kmおよび長さ 0.7 km（2 条），東西方向，準確実活断層	
		・活断層研究会編（1991）：長さ 3.5 kmおよび長さ 0.7 km（2 条），確実度Ⅱ，活動度 C	
		・佃ほか（1985），中田・今泉編（2002），中田ほか（2008）：記載なし	
地形調査	空中写真判読	・谷や尾根の左屈曲，鞍部などから成る長さ 2.4km の変位地形・リニアメント。	添付図 4－1
地質調査	地表地質踏査	・新第三系中新統の成相寺層の泥岩，流紋岩質火砕岩，デイサイト～安山岩質火砕岩および貫入岩であるドレライトが分布する。 ・これらの地層は全体に東西方向の走向で北傾斜の同斜構造を示し，ドレライトも周囲の地層に調和的な岩床状の貫入岩体として分布する。ドレライトは著しく風化し，成相寺層の泥岩や流紋岩質火砕岩に比べ軟質化している。	添付図 4－2
		・鹿島町上講武清水における変位地形・リニアメント直下においてピット調査を実施した結果，成相寺層の凝灰岩，泥岩および貫入岩のドレライトが分布しており，断層は認められない。	添付図 4－3
総合評価	・古殿[北][南]断層にほぼ対応する変位地形・リニアメントは，岩質の差を反映した組織地形であると判断される。		



添付図 4 - 1 古殿[北][南]断層周辺の空中写真判読図



添付図4-2 古殿[北][南]断層周辺の地質図および地質断面図



添付図 4-3 露頭スケッチ (上講武：L o c . F-1)

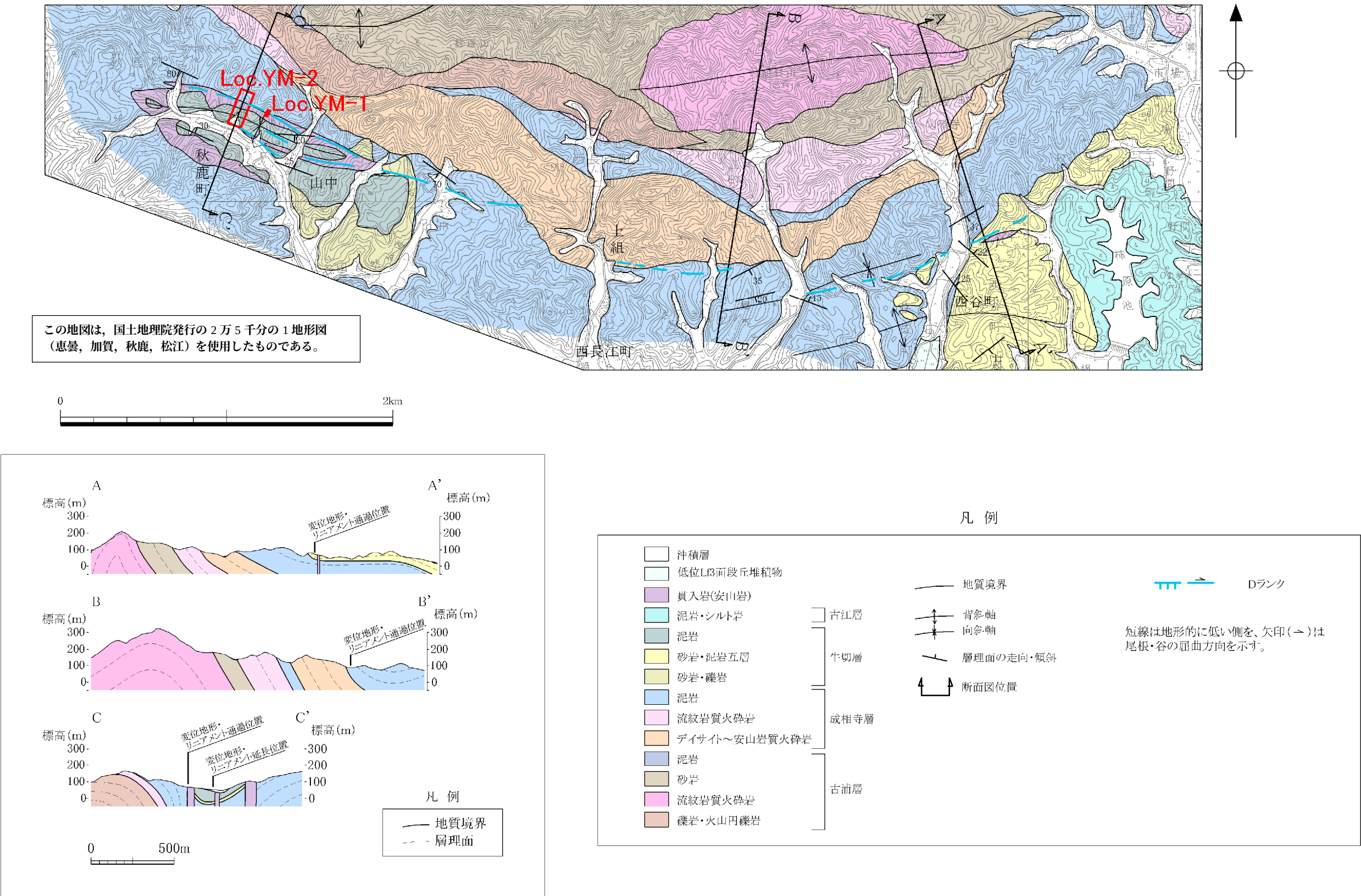
敷地周辺・近傍の断層等

⑤山中付近断層

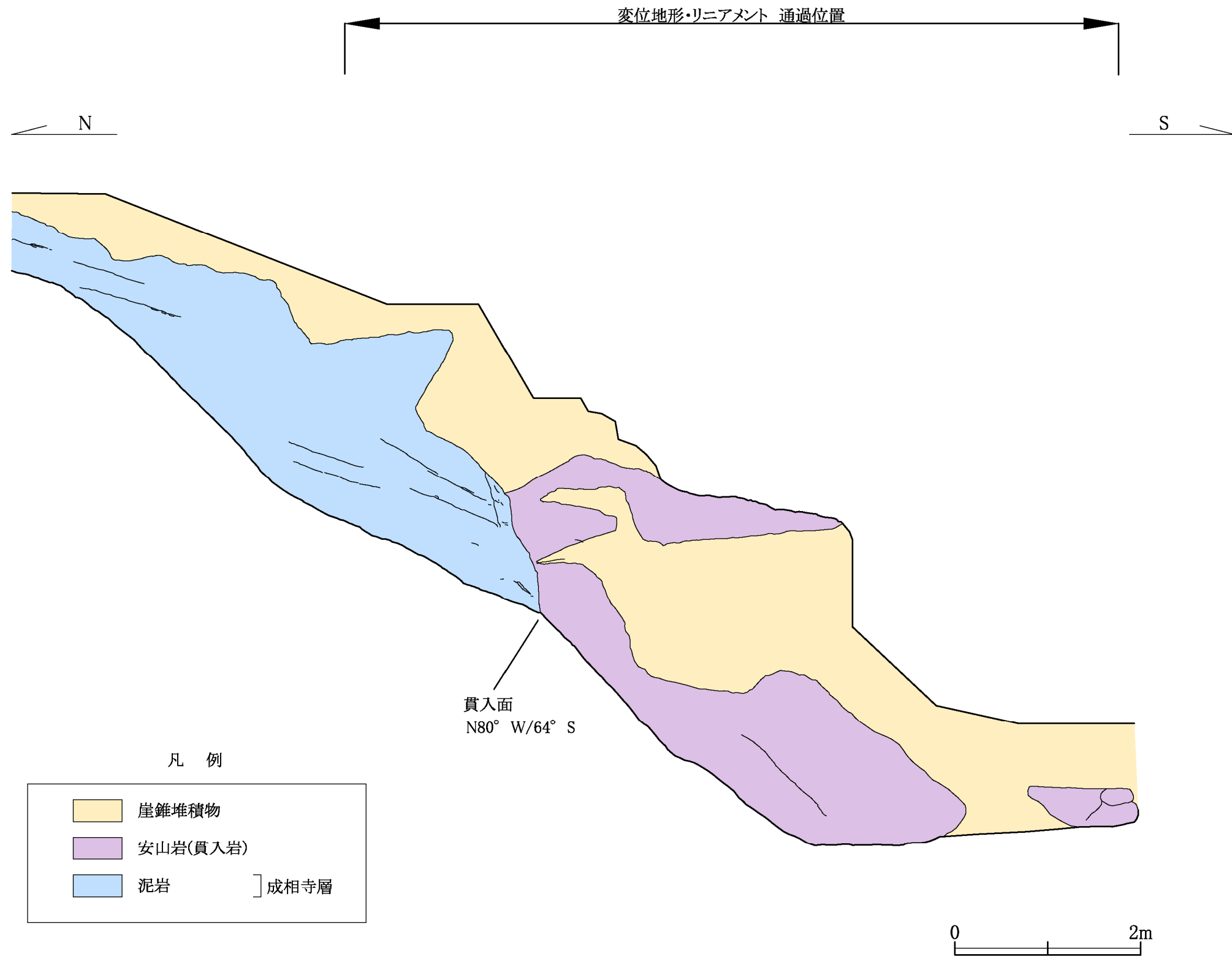
調査項目	調査手法	調査結果	備 考
文献調査	－	・ 橋本ほか(1980)：長さ 3.5km および 2.7km (2 条)，西北西－東南東～東北東－西南西方向，推定活断層	
		・ 活断層研究会編 (1991)：長さ 3.5km，確実度Ⅲ，活動度 C，またこの東南東に別の確実度Ⅲの活断層を記載	
		・ 佃ほか (1985)，中田・今泉編 (2002)，中田ほか (2008)：記載なし	
地形調査	空中写真判読	・ 鞍部，傾斜変換線等から成る長さ 5.1km の変位地形・リニアメント。	添付図 5－1
		・ 変位地形・リニアメントの北側は南側に比べ山地高度が高い。これらの地形要素は一部で断続し，不鮮明である。	
地質調査	地表地質踏査	・ 新第三系中新統の成相寺層，牛切層，古江層および貫入岩が分布する。	添付図 5－2
		・ 成相寺層は変位地形・リニアメントの北側では主に流紋岩質火砕岩，デイサイト～安山岩質火砕岩が分布し，南側では主に泥岩が分布する。牛切層は砂岩・礫岩，泥岩，砂岩・泥岩互層から成る。古江層は泥岩・シルト岩から成る。貫入岩は安山岩から成る。	
		・ 松江市西長江町上組においては，成相寺層と牛切層が東西方向の軸を持つ緩やかな褶曲構造を示し，変位地形・リニアメントは北側の成相寺層のデイサイト～安山岩質火砕岩と南側の成相寺層の泥岩との境界，または北側の成相寺層の泥岩と南側の牛切層の砂岩・泥岩互層との境界付近に位置する。	
		・ 秋鹿町山中の変位地形・リニアメント位置では北側に成相寺層のホルンフェルス化した泥岩が，南側には安山岩（貫入岩）が広く分布しており，断層は認められない。 ・ 安山岩（貫入岩）は高標高部では赤色風化が著しく，成相寺層のホルンフェルス化した泥岩に比べ軟質である。	添付図 5－3 添付図 5－4
総合評価	・ 山中付近断層等にほぼ対応する変位地形・リニアメントは，岩質の差を反映した組織地形であると判断される。		



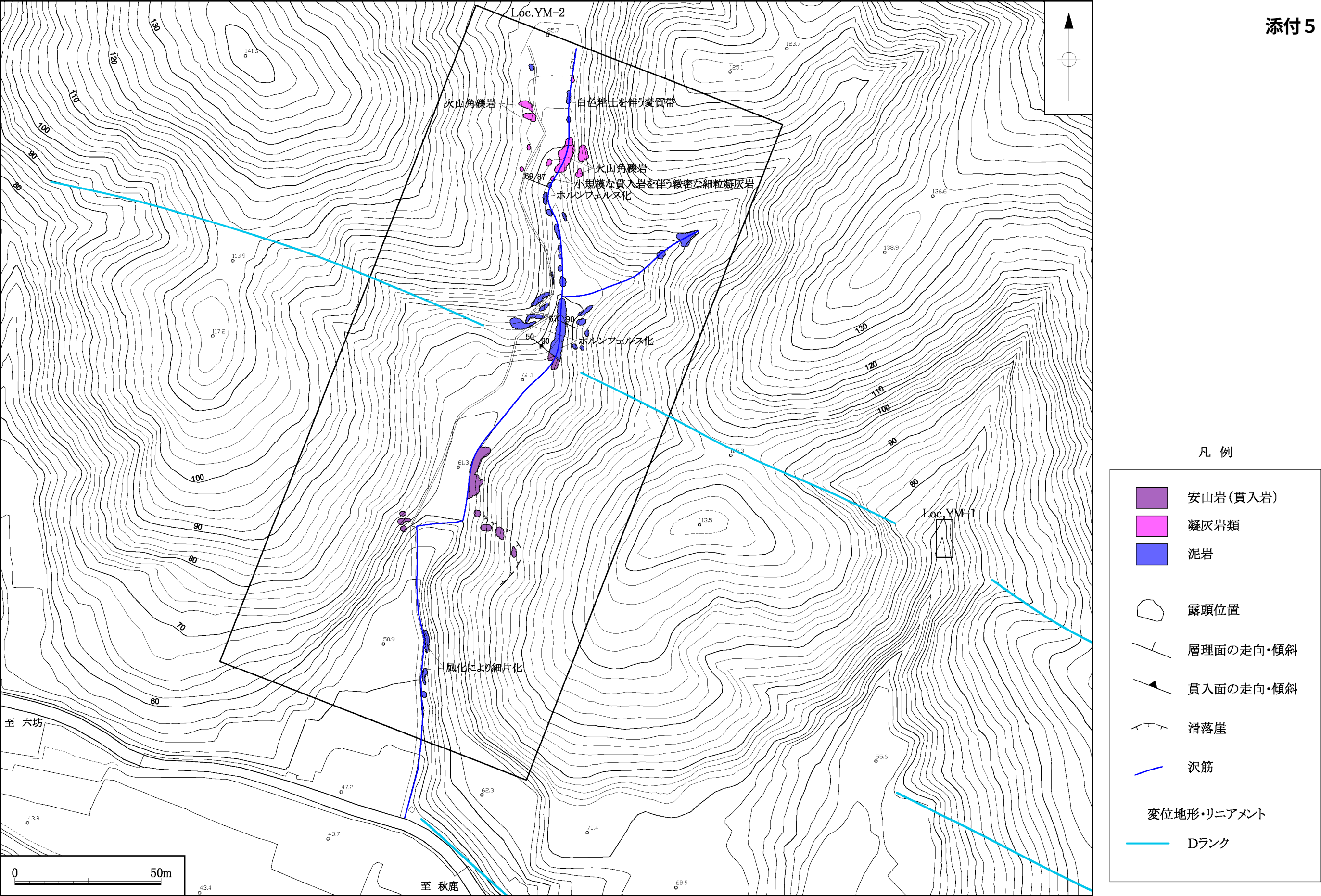
添付図5－1 山中付近断層周辺の空中写真判読図



添付図5－2 山中付近断層周辺の地質図および地質断面図



添付図5－3 露頭スケッチ（秋鹿町山中：L o c . Y M－1）



添付図5-4 ルートマップ (秋鹿町山中: Loc. YM-2)

敷地周辺・近傍の断層等

⑥ F－A断層

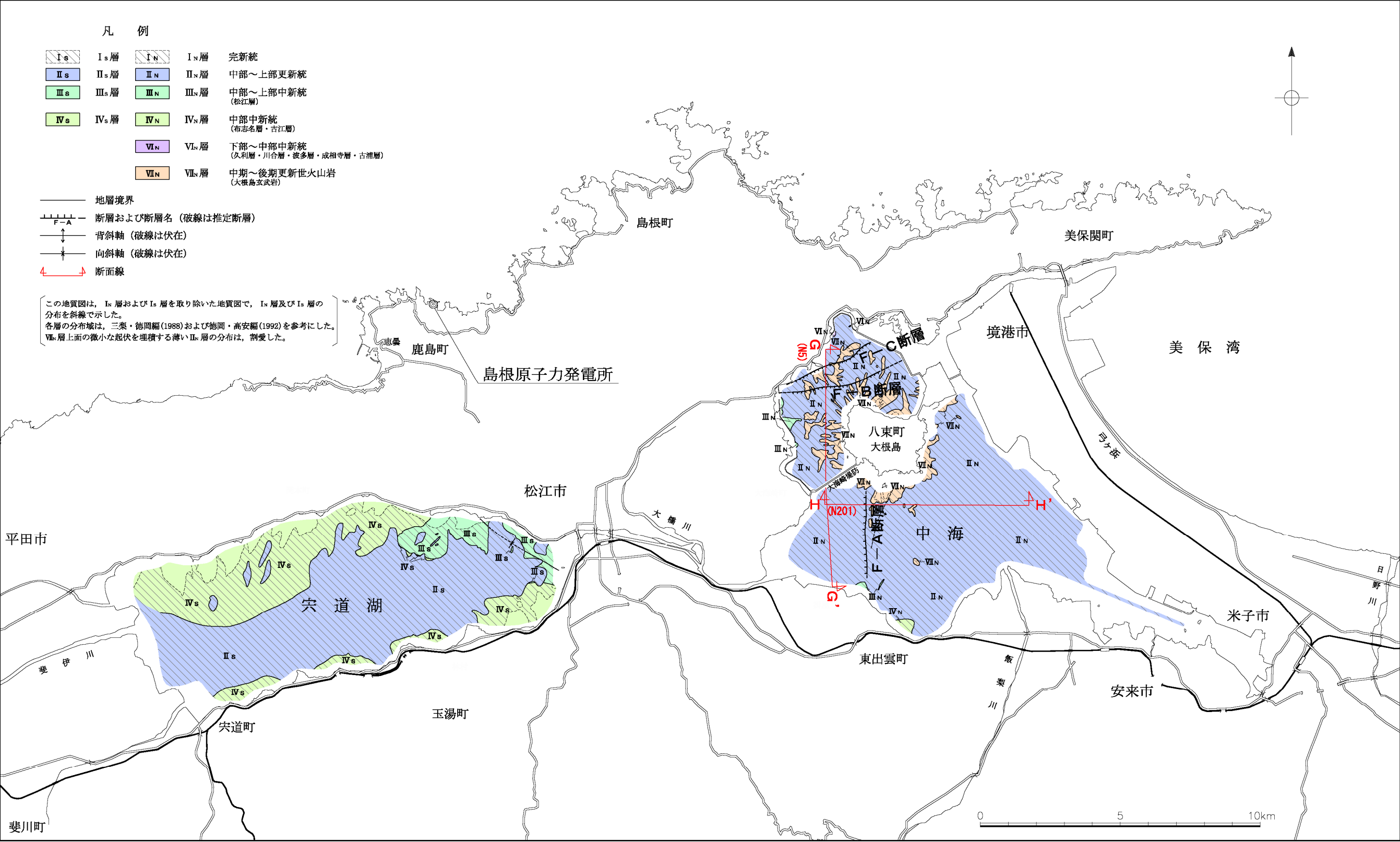
調査項目	調査手法	調査結果	備 考
文献調査	－	・三梨・徳岡編（1988），徳岡・高安編（1992）：記載なし	
音波探査	ソノプローブ・シングルチャンネル，ウォーターガン・シングルチャンネル，エアガン・マルチチャンネル等	・中海南部を北－南方向に延びる長さ約 2.2km 以上の断層。	添付図 6－1
		・断層はⅦ _N 層（中期～後期更新世火山岩），Ⅱ _N 層（中部～上部更新統）およびⅠ _N 層（完新統）に変位や変形を与えていない。	添付図 6－2
総合評価	・断層はⅦ _N 層（中期～後期更新世火山岩），Ⅱ _N 層（中部～上部更新統）およびⅠ _N 層（完新統）に変位や変形を与えていない。		

⑦ F－B断層

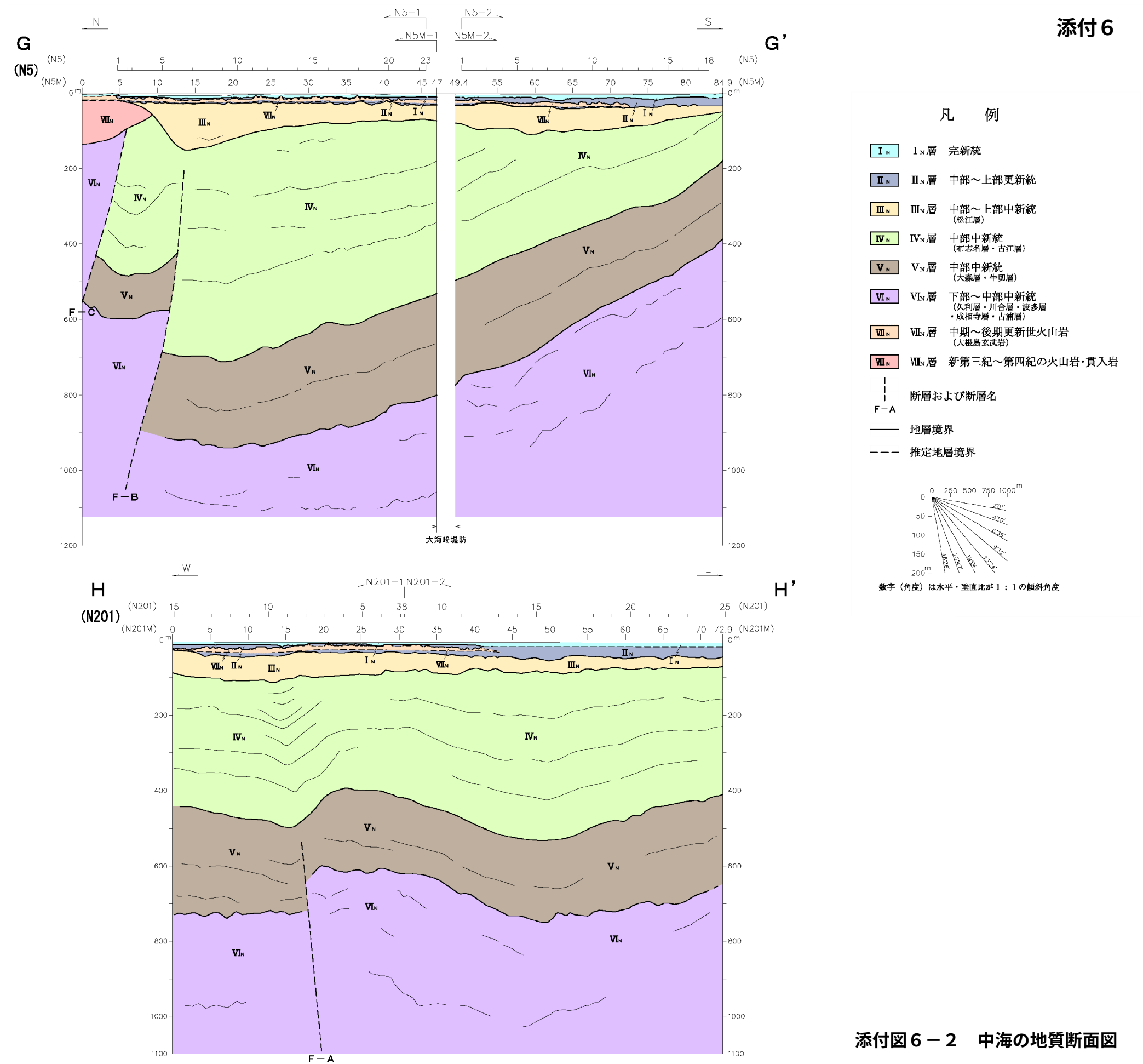
調査項目	調査手法	調査結果	備 考
文献調査	－	・三梨・徳岡編（1988），徳岡・高安編（1992）：記載なし	
音波探査	ソノプローブ・シングルチャンネル，ウォーターガン・シングルチャンネル，エアガン・マルチチャンネル等	・中海北部を東北東－西南西方向に延びる長さ約 2.8km 以上の断層。	添付図 6－1
		・断層はⅦ _N 層（中期～後期更新世火山岩），Ⅱ _N 層（中部～上部更新統）およびⅠ _N 層（完新統）に変位や変形を与えていない。	添付図 6－2
総合評価	・断層はⅦ _N 層（中期～後期更新世火山岩），Ⅱ _N 層（中部～上部更新統）およびⅠ _N 層（完新統）に変位や変形を与えていない。		

⑧ F－C断層

調査項目	調査手法	調査結果	備 考
文献調査	－	・三梨・徳岡編（1988），徳岡・高安編（1992）：記載なし	
音波探査	ソノプローブ・シングルチャンネル，ウォーターガン・シングルチャンネル，エアガン・マルチチャンネル等	・中海北部を東北東－西南西方向に延びる長さ約 2.7km 以上の断層。	添付図 6－1
		・断層はⅦ _N 層（中期～後期更新世火山岩），Ⅱ _N 層（中部～上部更新統）およびⅠ _N 層（完新統）に変位や変形を与えていない。	添付図 6－2
総合評価	・断層はⅦ _N 層（中期～後期更新世火山岩），Ⅱ _N 層（中部～上部更新統）およびⅠ _N 層（完新統）に変位や変形を与えていない。		



添付図6－1 宍道湖および中海の地質図



添付図 6-2 中海の地質断面図

敷地周辺・近傍の断層等

⑨ F－Ⅰ断層

調査項目	調査手法	調査結果	備 考
文献調査	－	・ 玉木ほか（1982）：長さ 23 km，東北東－西南西方向，中央部は断層，東部および西部は伏在断層	
海上音波探査	スパーカー・シングルチャンネル，ジオパルス・マルチチャンネル等	・ 敷地前面海域中央部を東北東－西南西方向に延びる複向斜構造の北翼に沿って認められる長さ約 19.5km の断層。	添付図 7－1
		・ 断層は，B _{2E} 層（中部更新統）に変位や変形を与えていない。	添付図 7－2
総合評価	・ 断層は，B _{2E} 層（中部更新統）に変位や変形を与えていない。		

⑩ F－Ⅱ断層

調査項目	調査手法	調査結果	備 考
文献調査	－	・ 海上保安庁水路部（1992）：長さ 9.4 km，東－西方向，断層および伏在断層	
海上音波探査	スパーカー・シングルチャンネル，ジオパルス・マルチチャンネル，ウォーターガン・マルチチャンネル等	・ 敷地前面海域中央部を東北東－西南西方向に延びる複向斜構造の南翼に沿って認められる長さ約 12.5km の断層。	添付図 7－1
		・ 断層は，B _{2E} 層（中部更新統）に変位や変形を与えていない。	添付図 7－2
総合評価	・ 断層は，B _{2E} 層（中部更新統）に変位や変形を与えていない。		

⑪ F－Ⅵ断層

調査項目	調査手法	調査結果	備 考
文献調査	－	・ 玉木ほか（1982）：長さ 17 km，東北東－西南西方向，中央部は断層，東部および西部は伏在断層	
海上音波探査	スパーカー・シングルチャンネル等	・ 敷地前面海域北部を東北東－西南西方向に延びる複背斜構造の北翼に沿って認められる長さ約 18.5km の断層。	添付図 7－1
		・ 断層は，C層（鮮新統～下部更新統）に変位や変形を与えていない。	添付図 7－3
総合評価	・ 断層は，C層（鮮新統～下部更新統）に変位や変形を与えていない。		

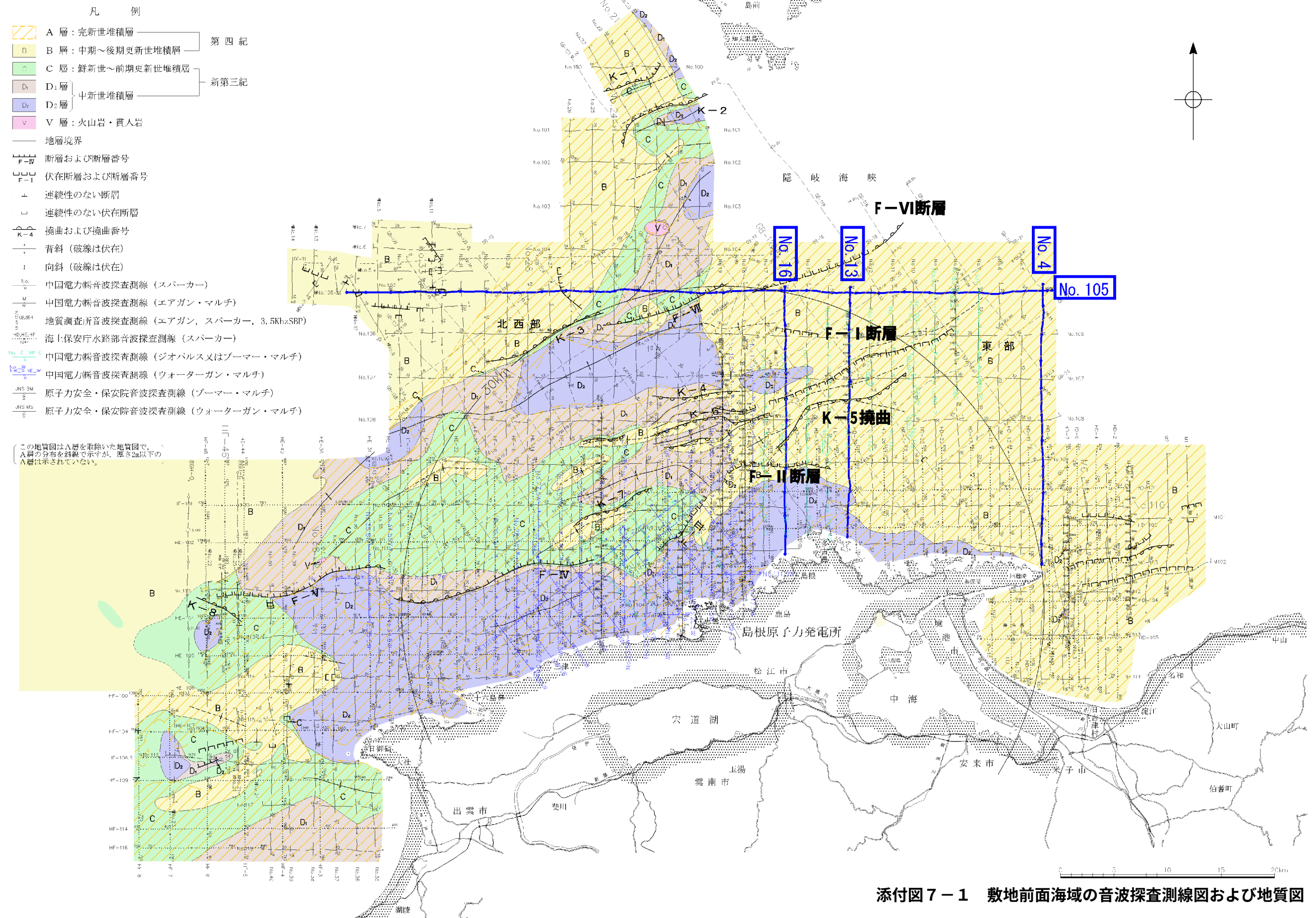
敷地周辺・近傍の断層等

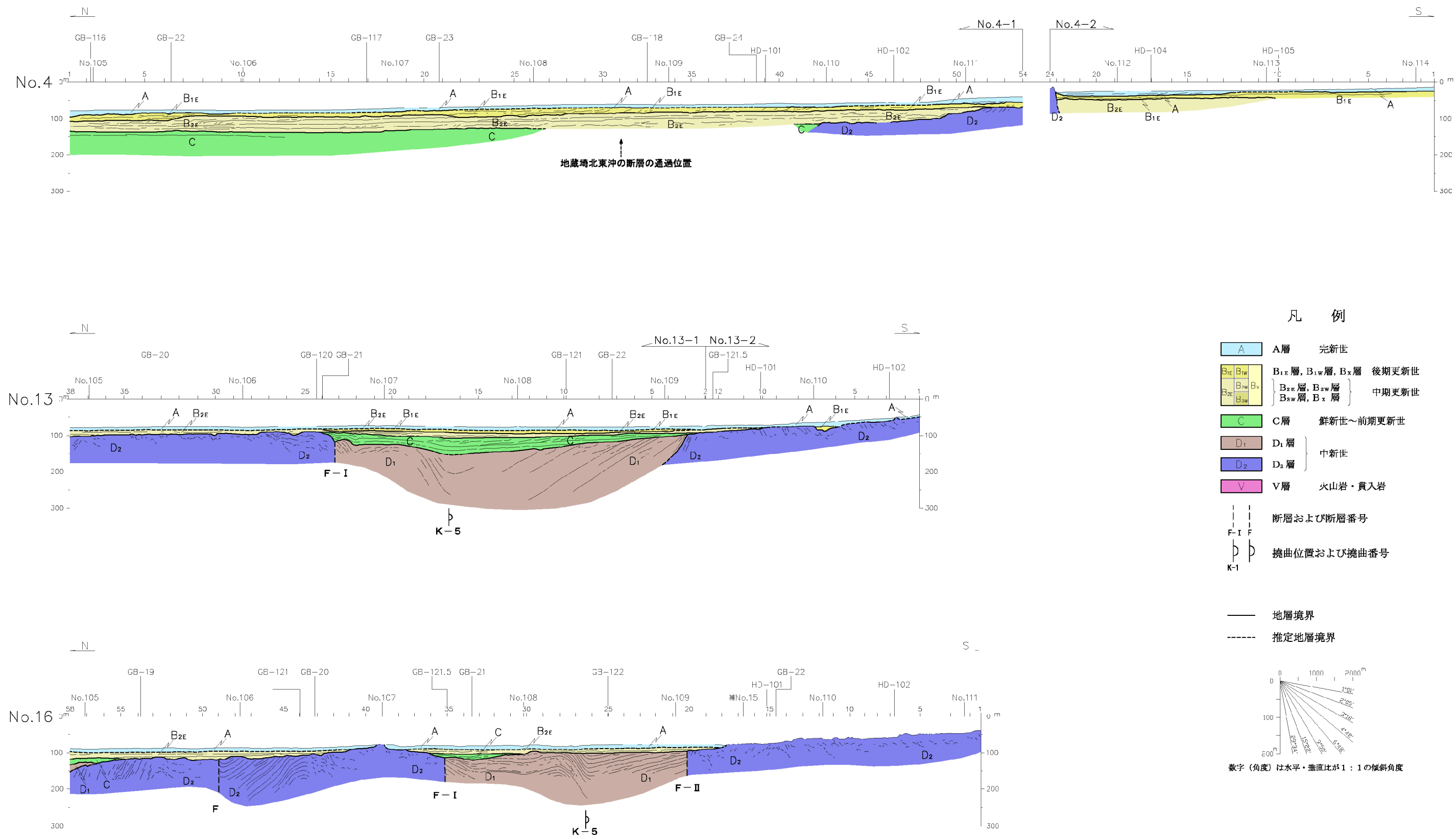
⑫ K－5 撓曲

調査項目	調査手法	調査結果	備 考
文献調査	－	・ 玉木ほか（1982）等：記載なし	
海上音波探査	スパーカー・シングルチャンネル，ジオパルス・マルチチャンネル等	・ 敷地前面海域北部を東北東－西南西方向に延びる複背斜構造の南翼に沿って認められる長さ約 16.5km の撓曲。	添付図 7－1
		・ 撓曲は，B _{2E} 層（中部更新統）に変位や変形を与えていない。	添付図 7－2
総合評価	・ 撓曲は，B _{2E} 層（中部更新統）に変位や変形を与えていない。		

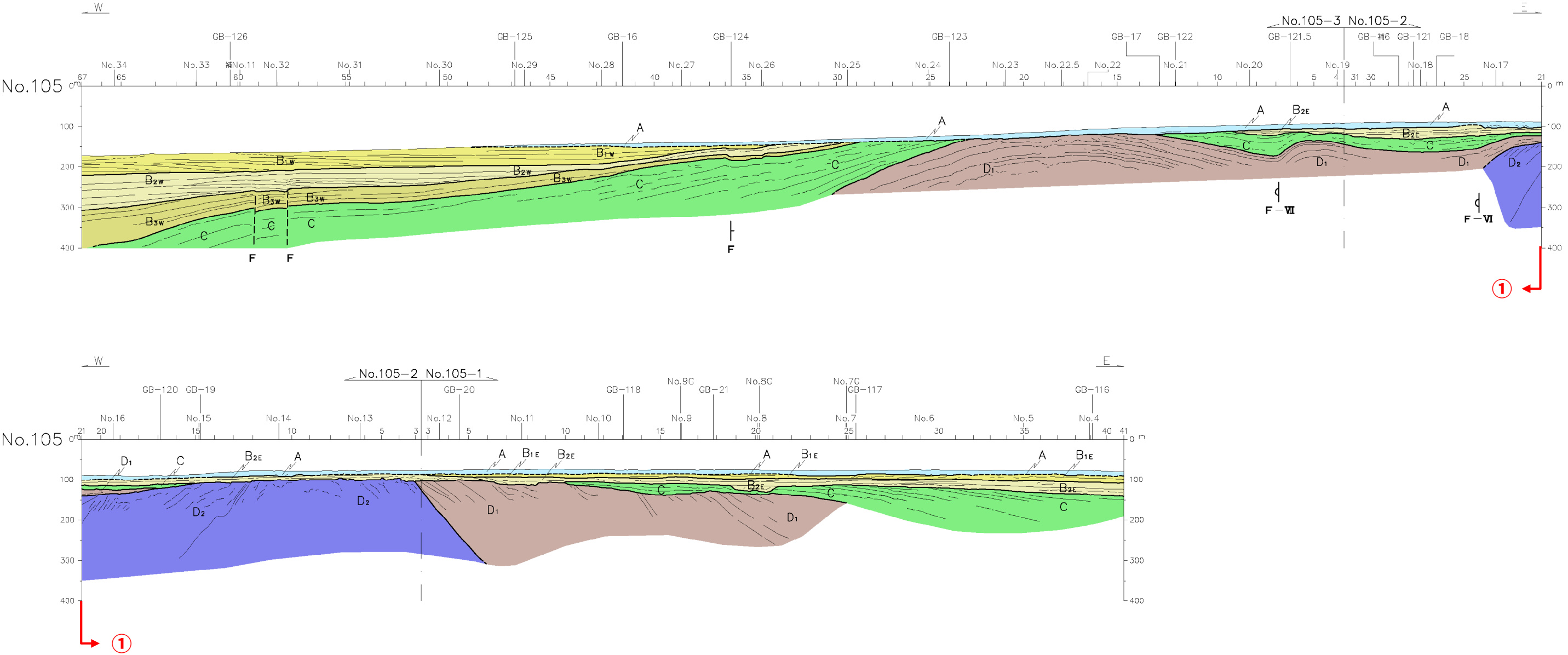
⑬ 地蔵崎北東沖の断層

調査項目	調査手法	調査結果	備 考
文献調査	－	・ 玉木ほか（1982）：長さ 46km，東北東－西南西方向，西部は断層および伏在断層，東部は推定断層	添付図 7－1
海上音波探査	スパーカー・シングルチャンネル等	・ 中部更新統以上には断層は認められない。 ・ 下部更新統以下の記録が見られる深度には断層は認められない。	添付図 7－2
総合評価	・ 文献に示されている断層位置において，記録が見られる深度には断層は認められない。		





添付図7-2 敷地前面海域の地質断面図 (No. 4測線, No. 13測線, No. 16測線)

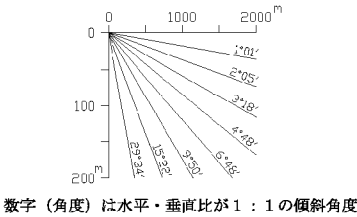


凡 例

- A層 完新世
- B1E層, B1W層, Bx層 後期更新世
- B2E層, B2W層, B3W層, Bx層 中期更新世
- C層 鮮新世～前期更新世
- D1層 中新世
- D2層 中新世
- V層 火山岩・貫入岩

- 断層および断層番号
- F-I F
- K-I
- F-I F
- K-I

- 地層境界
- 推定地層境界

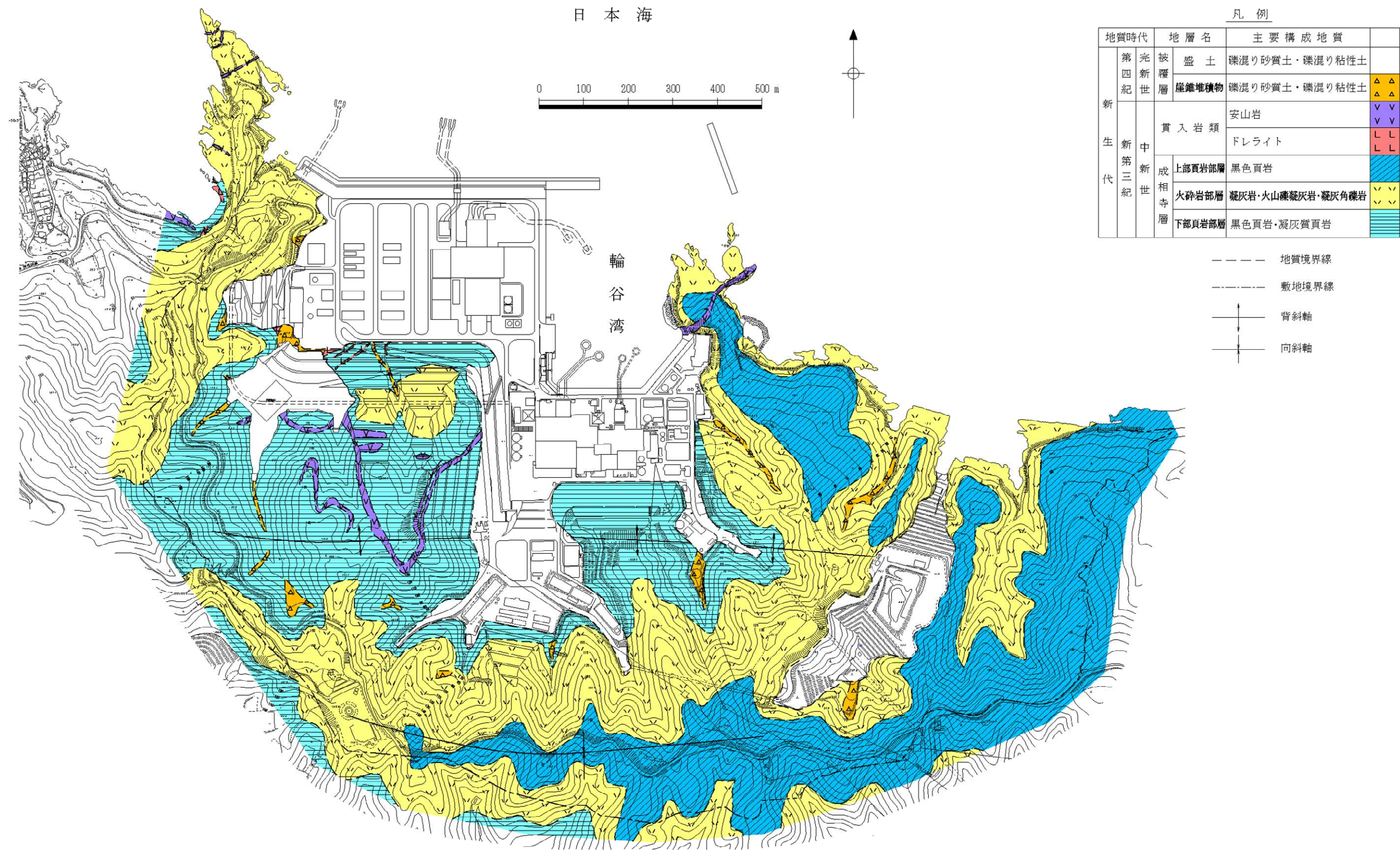


添付図7-3 敷地前面海域の地質断面図（No. 105測線）

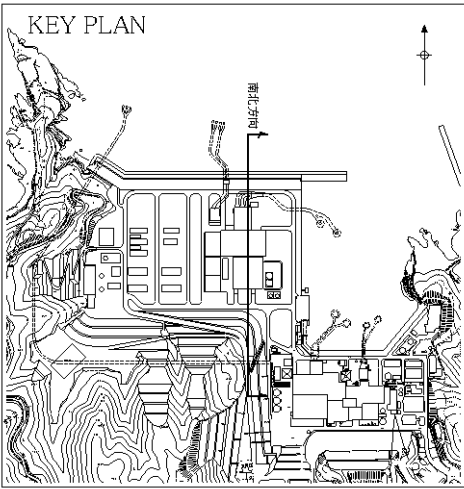
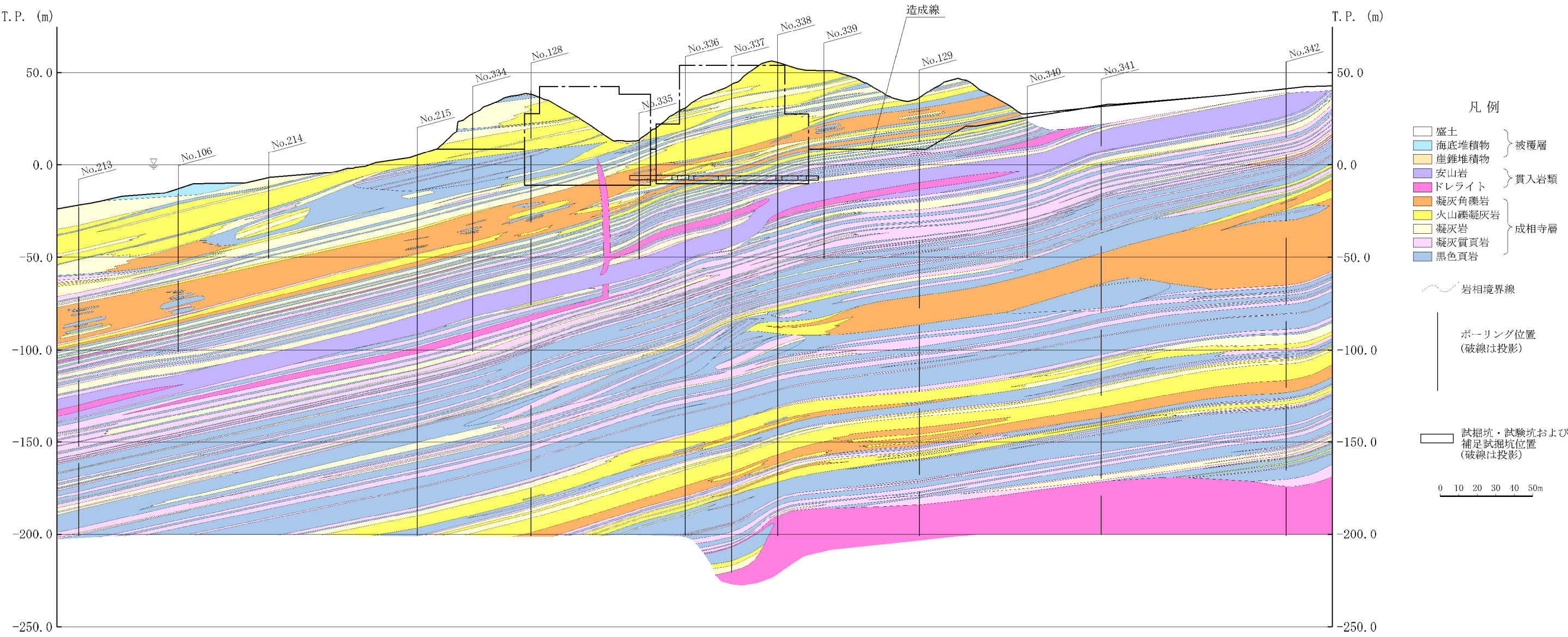
敷地内の断層等

① シーム

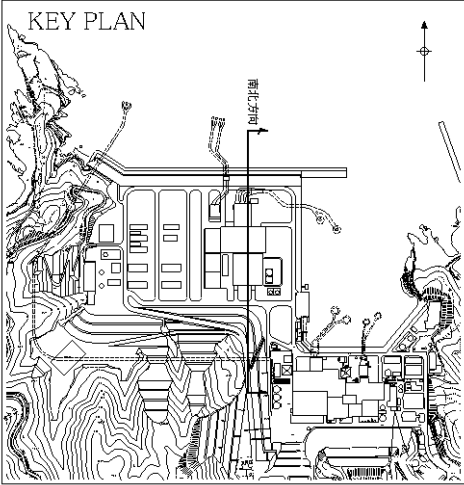
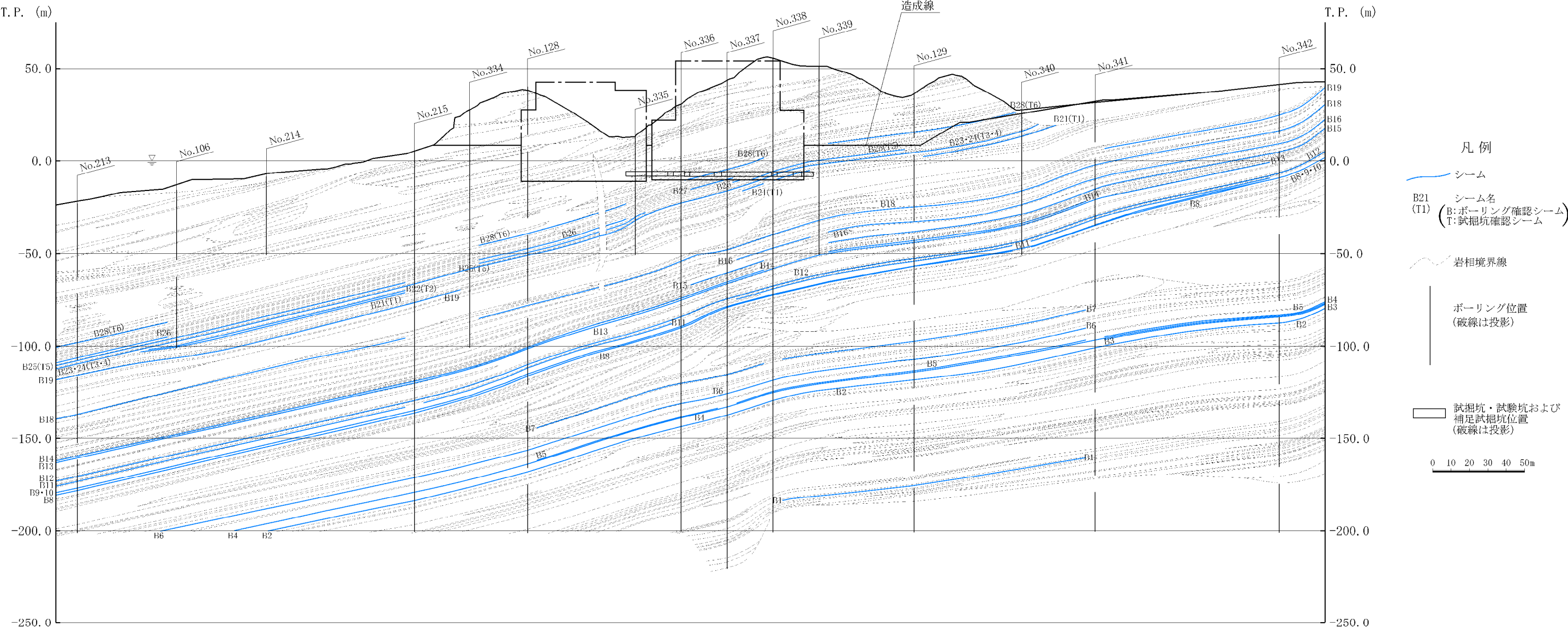
調査項目	調査手法	調査結果	備 考
地質調査	地表地質踏査，ボーリング調査，試掘坑調査等	・ 原子炉建物基礎地盤における成相寺層は，走向 N70 ° W～E-W を示し，北へ向かって約 10 ° ～約 20 ° 傾斜している。 ・ 原子炉設置位置付近の地盤には，ある広がりをもって断続的に分布するシームが存在する。 ・ シームの厚さはほとんどが 3cm 程度以下で，灰色～灰白色の粘土から成り，全て層理に平行な走向・傾斜を示している。	添付図 8－1 添付図 8－2 添付図 8－3
総合評価	・ いずれも厚さが薄く，母岩との境界面が明瞭であること，地層の走向・傾斜と同一であることなどから，新第三紀中新世の褶曲構造の形成に伴って生成されたものと考えられる。		



添付図 8－1 敷地の地質平面図



添付図8-2 地質鉛直断面図（南北方向）



添付図8-3 シーム分布鉛直断面図（南北方向）